

# TOYO GOSEI

第64期 中間報告書 | 平成25年4月1日 ▶ 平成25年9月30日



## ● 業績のご報告

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の日本経済は、アベノミクスによる円高の是正、株価の上昇を契機に、着実な回復を示しました。個人消費は、消費者マインドの改善に加え雇用・所得環境の良化から底堅く推移し、住宅投資も金利・地価の先高感を背景に堅調な動きとなり、また、設備投資や鉱工業生産も穏やかながら持ち直しつつある状況となりました。政府は、平成25年10月1日に平成26年4月からの消費税率引き上げを決定しましたが、併せて、企業減税や経済対策の策定に入っており、今後は如何に経済成長と財政再建を同時に実現できるかが試されることとなります。

このような事業環境のなか、当社グループはお客様との関係強化に努め、お客様のニーズに応えるべく新製品の開発や既存製品の拡販に取り組んだ結果、当中間期の売上高は7,162百万円(前年同期比+313百万円、+4.6%)となりました。

セグメント別では、感光性材料事業の感光材部門において、半導体向け感光性材料はスマートフォンやタブレット端末など高精細な表示性能を要求される電子機器の拡大が進んだことにより、高価格品を中心に需要が伸長しました。また、液晶用途向け感光性材料は、液晶テレビや液晶ディスプレイなどの価格下落の影響を受けたものの、拡販により堅調に推移しました。加えて、エネルギー部門では、車載用途向け電解液の需要が伸長しており、継続して需要開拓を進めました。

 TOYO GOSEI

代表取締役社長

木村 有仁



化成品事業においては、香料材料部門は円安の追い風を受けたものの、マーケットにおける価格競争が依然として厳しく、低調に推移しました。グリーンケミカル部門は高付加価値品と溶剤リサイクルを中心に引き続き市場開拓を進めているものの、国内半導体市場の低迷の影響を受け、低調に推移しました。一方、ロジスティック部門は、お客様満足度の維持・向上に努めた結果、引き続きタンク契約率を高水準に維持し、好調に推移しました。

これらの結果、円安による増収効果はありましたが、原材料費の上昇、及び前年度期央と当期初に稼働開始した二つの新工場の固定費負担増などにより、営業損失は△346百万円(前年同期比△312百万円)、経常損失は△335百万円(前年同期比△160百万円)、四半期純損失は△345百万円(前年同期比△137百万円)となりました。

## ● 当期の見通し

当期の見通しについては、引き続き円安による輸出条件の好転が見込まれる一方、中東諸国の政情不安に起因した原油価格の上昇などが懸念されることから、今後も楽観を許さない状況が続くものと予想されます。このようななか、当社グループにおいては、前年度期央と当期初に稼働を開始した二つの新工場の固定費負担の増加及び立ち上がりの遅れなどにより、売上高14,900百万円(前期比+759百万円)、営業損失△670百万円(前期比△941百万円)、経常損失△570百万円(前期比△705百万円)、当期純損失△590百万円(前期比△633百万円)を見込んでいます。

当社グループは厳しい経営環境下においても収益を生み出す事業体質の定着化を目指し、主に右記の施策に取り組んでいきます。

- 1 本社・営業部門の機能集約を通じて、意思決定スピードを速め、事業戦略の立案・展開を強化する。
- 2 営業・研究部門・生産現場の連携を強め、お客様との関係強化と拡販に努めるとともに、新たな需要を開拓する。
- 3 生産性の更なる向上とコスト削減活動を推進し、競争力を強化する。

特に、新たに稼働を開始した二つの工場についてその投資回収に努め、当社の収益基盤をより強固なものにするため、営業・研究開発・本部が一体となって支援する態勢を強化し、今後の成長に向けた展開を加速していきます。

今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

## TOPICS

## トピックス

### 事業継続マネジメント規格「ISO22301」認証を取得

当社は、平成25年10月1日、感光性材料の製造事業において、事業継続マネジメント規格である「ISO22301:2012」\*の認証をBSIジャパン株式会社より取得しました。平成24年9月に「BS25999-2:2007」の認証を取得しましたが、事業継続マネジメント規格がISO化されたことを受け、このたび「ISO22301:2012」の認証を取得しました。

今後も、お客様へ高水準のサービスをご提供するとともに、企業価値のより一層の向上に努めていきます。



\*「ISO22301:2012」:地震や台風などの自然災害、ITシステム障害、あるいは新型インフルエンザの感染爆発(パンデミック)といった災害や事故、事件などが現実となった場合に備えて対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するための事業継続マネジメントシステム(BCMS)の国際規格です。

# 連結決算ハイライト CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

売上高

7,162 百万円

営業  
損失

△346 百万円

経常  
損失

△335 百万円

四半期  
純損失

△345 百万円

## 当中間期のポイント

**POINT 1** スマートフォンやタブレット端末などの拡大により高価格品の感光性材料の需要が伸長

**POINT 2** 液晶テレビや液晶ディスプレイ向けの感光性材料が拡販により堅調に推移

**POINT 3** 化成品事業は、国内半導体市場低迷の影響と新工場稼働の遅れにより低調に推移

## 貸借対照表ハイライト (連結)

(単位：百万円)

科目	前期 平成25年3月31日	当中間期 平成25年9月30日
流動資産	9,824	9,791
固定資産	19,943	19,604
<b>資産合計</b>	<b>29,768</b>	<b>29,396</b>
流動負債	12,807	12,359
固定負債	10,390	10,830
<b>負債合計</b>	<b>23,197</b>	<b>23,189</b>
純資産	6,570	6,207
<b>総資産</b>	<b>29,768</b>	<b>29,396</b>

## 収益性指標ハイライト (連結)

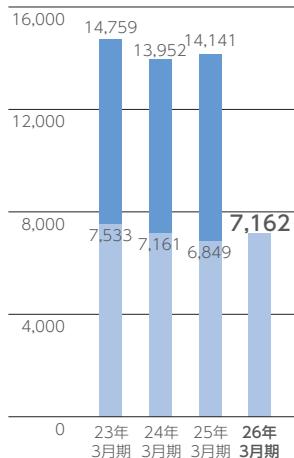
(単位：百万円)

科目	前中間期 自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	当中間期 自平成25年4月1日 至平成25年9月30日
売上高	6,849	7,162
営業損失	△34	△346
経常損失	△174	△335
四半期純損失	△207	△345
フリーキャッシュ・フロー	△1,281	△1,603

より詳細な情報につきましては、当社WEBサイトをご参照ください。➔ <http://www.toyogosei.co.jp/> 

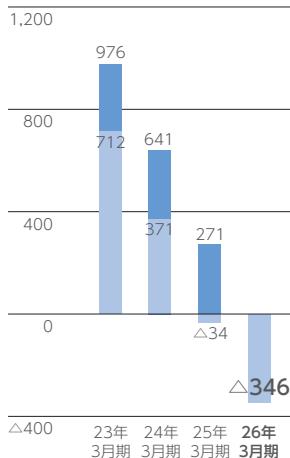
### 売上高 (単位：百万円)

■ 中間 ■ 期末



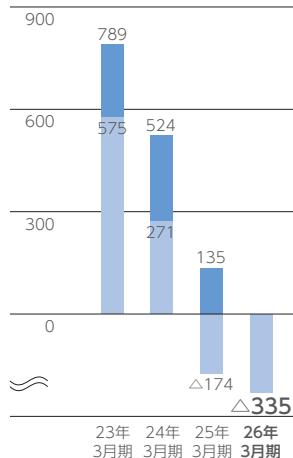
### 営業利益 (単位：百万円)

■ 中間 ■ 期末



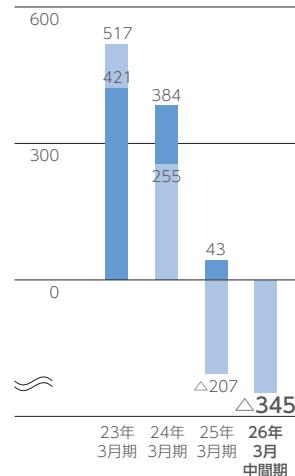
### 経常利益 (単位：百万円)

■ 中間 ■ 期末



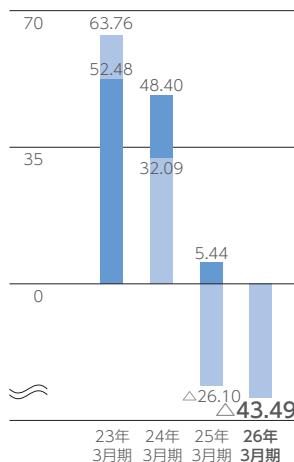
### 四半期(当期)純利益 (単位：百万円)

■ 中間 ■ 期末



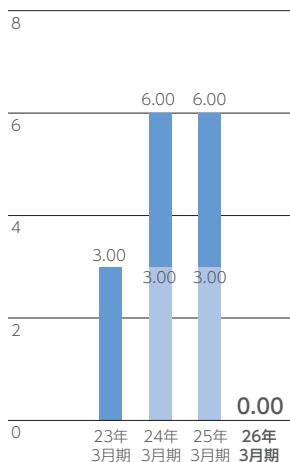
### 1株当たり四半期(当期)純利益 (単位：円)

■ 中間 ■ 期末



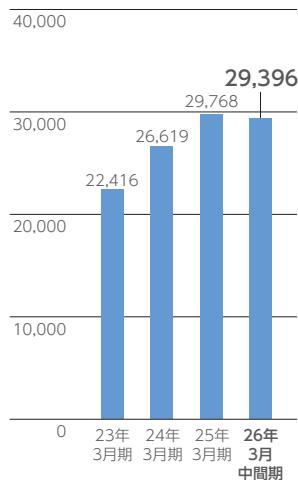
### 1株当たり配当金 (単位：円)

■ 中間 ■ 期末



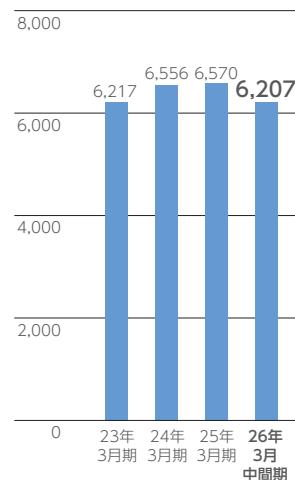
### 総資産 (単位：百万円)

(単位：百万円)



### 純資産 (単位：百万円)

(単位：百万円)



## 感光性材料事業

Photosensitive Materials Division

売上高

4,005 百万円  
前年  
同期比 11.6%増

営業  
利益

96 百万円

### ● 業績の概況

感光材部門の半導体向け製品において、スマートフォンやタブレット端末など高精細な表示性能が要求される電子機器の拡大が進み、高価格品を中心に伸ばしたほか、液晶用途向け製品も液晶ディスプレイなどの価格が下落したものの、拡販により堅調に推移しました。また、エネルギー部門の電解液・イオン液体も車載用途向け電解液の需要が伸びました。以上の結果、売上高は4,005百万円(前年同期比+416百万円、+11.6%)、営業利益は96百万円(前年同期比+189百万円)となりました。

### 売上高の推移



## 化成品事業

Chemicals Division

売上高

3,157 百万円  
前年  
同期比 3.2%減

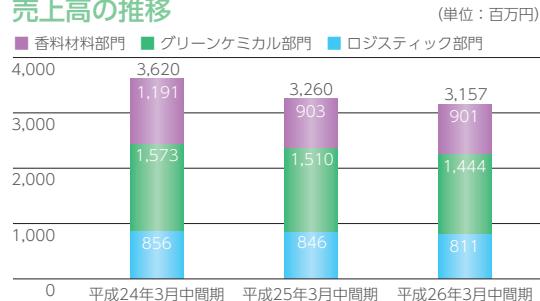
営業  
損失

△443 百万円

### ● 業績の概況

香料材料部門は、円安の追い風を受けたものの、マーケットにおける価格競争が依然として厳しく、低調に推移しました。グリーンケミカル部門においても、国内半導体市場の低迷の影響を受け、低調に推移しました。一方、ロジスティック部門は、タンク契約率を高水準に維持し、引き続き好調に推移しました。以上の結果、売上高は3,157百万円(前年同期比△103百万円、△3.2%)、営業損失は△443百万円(前年同期比△501百万円)となりました。

### 売上高の推移

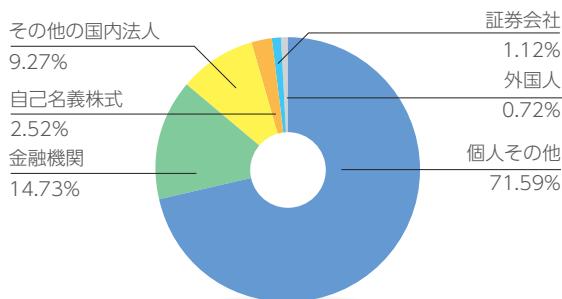


(平成25年9月30日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	8,479名

## 株式の分布状況



## 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
木村 正輝	1,237	15.59
木村 有仁	594	7.49
木村 愛理	383	4.83
(株)千葉銀行	298	3.76
(株)東京都民銀行	298	3.75
あいおいニッセイ同和損害保険(株)	248	3.13
(株)TGホールディング	200	2.52
(学)早稲田大学	200	2.52
東洋合成工業社員持株会	199	2.52
片岡 文子	163	2.06

当社は、自己株式を205千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式（205千株）を控除して計算しております。

## 会社の概要

商号	東洋合成工業株式会社
本店所在地	千葉県市川市上妙典1603番地
本社 (本社及び営業部門)	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
設立	昭和29年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員数	566名
事業内容	感光性材料、電子表示機器の材料などの開発・製造・販売 電池材料、電気二重層材料などの研究開発・製造・販売 感光性樹脂の研究開発、応用品の製造・販売 化学機械・装置の設計・製作・設置工事 上記物品の輸出・輸入及び倉庫業
事業所	市川工場、千葉工場、香料工場、淡路工場、高浜油槽所、感光材研究所、西日本営業所
関係会社	TG Finetech Inc.

## 役員

代表取締役会長	木村 正輝
代表取締役社長	木村 有仁
専務取締役	川村 繁夫
取締役	渡辺 宏一 出来 彰 島川 優 金子 順一
監査役	伊藤 衛 萩原 正一 宮崎 誠 本間 達三

## 🖥️ ホームページのご紹介

当社は、事業運営状況や投資家向けの情報を公開するにあたり、WEBを主要な手段の一つだと考えています。当社ホームページでは、最新情報を随時更新していますので、是非ご覧ください。

<http://www.toyogosei.co.jp/>



トップページ

IR情報

## ● 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日 中間配当を実施するときは 9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.toyogosei.co.jp/ir/epr.html">http://www.toyogosei.co.jp/ir/epr.html</a> ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株式の諸手続き	口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ信託銀行株式会社0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

## 🏢 東洋合成工業株式会社

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号  
ヒューリック浅草橋ビル8階  
TEL 03-6891-4970 FAX 03-6891-4980  
E-mail : [ir@toyogosei.co.jp](mailto:ir@toyogosei.co.jp)

